2月20日　ゲスト卓話

TBS テレビ報道局解説委員

小嶋　修一　様

TBS『 報道特集 』はどのように作られるのか

◎ シリーズ　がんサバイバー

がんになった後の人生を自分らしく有意義に生きぬく、がんサバイバーが注目されています。

シンガーソングライターで国連 UNHCR 協会広報アドバイザーの松田陽子さんの生きざまを通して、がんサバイバーのあり方を考えます。

○ がんサバイバー

☆ がんの告知を受けた個人が、その生涯を全うするまで

（NCCS の定義）

☆ 患者・体験者の家族・友人・ケアにあたる医療者など、闘病に関わる全ての人がサバイバー

○ 変わる生命観

がんサバイバーという生き方

☆ 医療等の進歩で、がんになった人の半数が、がんが治る時代に

⇒ がんが治ったあと、どのように生きるか

☆ 医療の隙間を埋めるのがサバイバー

※ がんと宣告されて治療が始まるまでの期間

※ 手術や化学療法が終わって病院を離れた後

⇒ 不安などからうつや不眠に悩まされる

⇒ 同じ病気を体験したサバイバーのサポート

⇒ がん宣告から一生を終えるまでがサバイバー

☆ 家族・友人もサバイバー

家族は自分の人生を犠牲にして看病

⇒ 家族・友人もサバイバーとして、ともに輝いた人生をを送ろう

☆ 家族・友人もサバイバーという意識を持つ

患者が残された時間を輝けるように支援

家族・友人も、患者の輝く人生から自分も学び、

自分の人生も生き生きとしたものに変える

○ がんサバイバーのチカラ

性に関するがんでは、結婚や妊娠、出産、育児などで

様々な問題が生じる可能性が高い。

恋人や配偶者など、パートナーの理解と協力なしには

生きてはいけない

○ 若年性で性に関わるがん

☆ 20代・30代で死と向き合うことの過酷さ

（患者の3分の2は30代までに発症）

☆ 交際・結婚（妊娠・出産）に支障

☆ 就職（再就職）・勤労に支障

☆ 性生活に影響（性機能障害）

子供をつくれないことも！

☆ 晩期障害も深刻

（プラチナ製剤 ⇒ 聴覚・腎障害）

○ <u>がんを治せばいいという時代は終わった</u>

☆ がんになった人の半分が、がんを克服して社会に戻る時代

◇ 患者が、がんになる前の QOL（生活の質）を取り戻せるようにすることが医療の課題

◇ 社会が支えていくシステムを作っていく必要

⇒ サバイバーが社会に情報提供し、社会を変えていく原動力になっていくことが求められている

○ がんは予防可能

『 がんの早期発見・早期治療 』から『 がん予防 』する時代へ

☆ 子宮頸がん

☆ 胃がん